

平成30年秋期 富岡第一地区推進連絡会

1 日時

平成30年10月27日（土） 17:00 ～19:00

2 場所

富岡ふれあいハウス

3 参加者

62名	（地域側）自治会等地域団体関係	35名
	学校、PTA関係	4名
	警察、消防関係	2名
	（支援チーム、その他行政側）	
	区役所	10名
	区社会福祉協議会、地域ケアプラザ	11名

4 住み慣れた地域で いつまでも 元気に暮らし続けるために（区長説明）

5 平成30年春期富岡第一地区推進連絡会の議事録確認

6 第3期金沢区地域福祉保健計画・地区別計画について

- ・リーフレット、ビデオ等により計画の説明
- ・社協だより等により取組報告

7 意見交換（グループ討議）

テーマ 自治会町内会のこれからを考える

（4グループに分かれて意見交換）

（1）「こうなったらいいな」

<あいさつ>

- ・道で会ったとき、自然とあいさつや会釈が交わされるとよい
- ・子どもとたくさんあいさつを交わしたい
- ・顔・名前を知っていて挨拶ができる町

<行事>

- ・班長以外の町内会会員にも、自然に参加してもらえるような行事があるとよい
- ・行事の周知と人集めの対策、掲示板の整備も必要
- ・行事等への子どもの参加が増えるといい、地域の子どもの数も増えるといい
- ・地域の行事にたくさんの人が参加してほしい
- ・世代交流ができる行事をしたい
- ・防災対策、避難訓練をしっかりと行うことが大事

<拠点/アクセス>

- ・鳥海ヶ丘に町内会館があるとよい

- ・歩いて行ける範囲に拠点がほしい
- ・足が悪い人でも集まれるような仕組みがあるとよい
- ・小さくても良いから自由に使える町内会館があったらいい
- ・会館・集会所に適した場所は見つけれられても建設実行は大変な労力がかかる
- ・ふれあいハウスまで来るのが大変
- ・自治会内に会館があるとよい、会場が少ないと活動が発展しない

<町内会の担い手>

- ・担い手不足を解消したい
- ・自治会各役員の業務内容（役割、会議等への出席）が明文化されている
- ・町内会の一員であることの自覚を持ち楽しく役員を引き受けてくれるようになる
といい
- ・町内会、子供会に入らない家庭が増えていることが悲しい
- ・退職して家にいる方々に、町内会へ参加してもらうにはどう声をかければよいか
- ・輪番制で任期が短いと長期的な課題への取り組みが進まない
- ・役員に選出されても高齢者にとっては負担が大きい
- ・町内会長や班長の役割が多岐にわたっていて大変

<みんなの顔が見える街>

- ・人とのつながりがある町
- ・地域と中学生との繋がりのある町
- ・若い世代と連携して楽しい地域づくりをしたい
- ・35年前と子どもの数は変わっていない自治会もある。若い世代に次世代の担い手となって欲しい
- ・シニアクラブへの入会者を増やす方法を知りたい、60歳代の参加が少ない
- ・シニアクラブのパンフレット作成など行政からも支援がほしい
- ・買い物難民が解消されるとよい
- ・空き家への対策が進むとよい

(2) 主な意見

【参加者を増やすためには】

- ・シニアクラブ以外の方に講師を頼むなど、枠を取っ払う
- ・シニアクラブのエリアを越えて参加できるようにする
- ・自治会とシニアクラブの連携が良いと人が集まる
- ・シニアクラブという名称に抵抗感があるのではないか
- ・防災訓練は、参加意欲につながるよう、班長以外にも役を割り振る
- ・行事は班長や役員が参加すればいいと言うイメージを変えていく

【担い手不足を解消するには】

- ・輪番制であっても、共通理解のもとで役割は決めていく
- ・くじ引きの方法を工夫する（予備3名を含む6名を候補者として選出し、話し合いで役割を決める）
- ・任期を工夫する（役割によって任期を変える）

- ・防犯パトロールの編成を変えてみる
- ・1年交代で役員が代わるのであれば次の役員が理解しやすい様、議事録の整備をするべき
- ・専業主婦率が高いエリアでも手伝ってくれる人は男性が多い
- ・PTAを卒業したお母さんに担い手になってもらいたいが、仕事を始める人も多い
- ・声をかけ、顔の見える関係を築き、人となりを知っていくことで、担い手候補者を広げる
- ・役員の仕事分散して多くの方が少しずつやっていく方がよい
- ・地域の中には多くの人材がいる、人材を把握して活用する必要がある
- ・毎年、会長が交代する町内会では、総会にも呼ばれない、地域の繋がりが少ないところもある
- ・長期間かかわってくれるリーダー的存在がいれば、町内会を理解し活動も盛り上がるのでは
- ・スポーツ推進委員、青少年指導員、子供会の連携が必要
- ・子供会は若い世代に作ってもらったらどうなのか
- ・子どもの参加を増やすには子どもが興味を持つ行事が必要
- ・地域の中で子供会のお母さんたちが担い手として育ててきている
- ・小中学生の頃から地域と繋がってもらい、次々世代の担い手になってもらいたい
- ・中学生も地域に協力したいという思いは持っている
- ・輝いている人がいたら応援するのが地域
- ・若い人は仕事や育児で時間がない、町内会に入らなくても困らない、困るのは「災害」の時ではないか
- ・60歳代が一番元気で時間もある。この世代がリーダーシップをとるのが良い
- ・全体を通した意見として 地域活動は「やるからには楽しくなければ仲間が増えない」、気楽に楽しくやって次世代に繋げていけるとよい

【集う場所をつくるには】

- ・会費を工面し、会館建設用に確保している
- ・空き家が多い。その空き家をどうにか(会館等に)できないか。
- ・会館を建てるにあたっては、準備資料も含め大変な作業が必要となる。
- ・会館をはじめとした集える場所作りは必要であるが、どうしたら良いかは結論が出ない

【防災・防犯について】

- ・要援護者リストの活用方法がわからない
- ・要援護者へのバックアップはどの程度必要なのかがわからない
- ・他地域の活動状況を知りたい
- ・高齢者だと、防災拠点の小田小学校まで行けない地域もあるので、避難場所の見直しが必要
- ・防犯パトロールをしているが空き家情報がない。単身高齢者が入院や入所をしても人間関係が希薄で情報がない

8 情報提供

警察：振り込め詐欺等の注意喚起

消防：火災の状況、救急件数の状況、各種事故の注意喚起